

http://www.minamih.net/



11・7・16(土)
南NEWS NO22

南の6年生・加藤君は7月10日の大会で下記の選手宣誓の大役を見事にこなし、八王子市長さんや日の出町町長さんにもお褒めの言葉をいただきました。

「宣誓、
僕たち日ノ出町・八王子市の選手一同は、
互いを思いやるリスペクト精神を大切に、
命あるもの全てと共に生きる環境問題を意識し、
正々堂々戦い、この大会に関わるすべての人の最高の笑顔があふれる大会にすることを誓います。
平成23年7月10日
選手代表、
南八王子サッカークラブ6年キャプテン加藤周。」

6年生の部 見事優勝おめでとう!!

3多摩は一つなり交流事業、サッカー交流戦
7月10日(日)@戸吹スポーツ公園
開会式で6年キャプテン加藤君の堂々とした選手宣誓で
始まりました。35度を超える猛暑の中、どのチームよりも3
試合運動量が落ちなかったのは、日頃の練習の成果です。
副賞として東京ヴェルディ選手サイン入りボールを授与され
ました。大切にしよう。チーム MVP は技のみならずコー
チングでチームをひっぱったMF加藤君が受賞しました。

- チームのめあて
- ①コーチング ②パス&トラップ精度高める
- ③コンビネーション ④サイドチェンジ

試合結果：3勝0敗

○第一試合：八王子愛宕 6-1

前半から相手を圧倒します。FW 荻沢君の左クロスからFW 工藤君がボールを受けて個人技で突破して先制します。続いてFW 荻沢君が角度のない左サイドからシュートを決めます。その後も攻め続け、MF 小沢君のスルーパスやFW 工藤君のミドルシュート、DF 林君の中央突破からのシュートを相手 GK がはじき、そこにすばやく詰めたMF 臼井君のゴールは見事でした。

○第二試合：日の出仲良し 2-1

MF 加藤君のコーチングや、DF 細川君、中野君、井上君、林君の安定した守り、FW 能登君の前線からの積極的な守備などで、試合を優位に進めますが、前半は工藤君の先制点で1-0で折り返します。後半早々1-1の同点にされ後半ロスタイムまで過ぎます。ラストプレーのスローインを起点に、右サイドへのクロスからFW 工藤君が合わせゴール左上隅への豪快なシュートを決め終了ホイッスル。最後まで攻め続けたアグレッシブな気持ちが勝利を呼び込みました。

○第三試合：バリオーレ日の出 1-0

勝てば優勝の試合でしたが、3試合目で疲れは隠し切れない中、前半DF 林君→FW 工藤君が決めたゴールで1-0でリードします。試合が進むにつれ、相手の素早いアプローチ、1対1の強さにてこずり、中盤は相手優位に攻められますが、ゴール前の攻防で何とかゴールを防ぎます。攻撃もサポートの意識が低下しパスをまわし切れず、課題としていた縦のみの単調な攻撃が目立ちました。相手のフィニッシュの精度の悪さにも助けられ何とか逃げ切った試合でした。



加藤君の選手宣誓

チームめあてだった①コーチングの質は上がっています。試合前のアップから、声をかけあい、パスの「出し手」、「受け手」からの多くの指示が出ていました。今日のような暑さでは、お互いを盛り上げ気持ちを鼓舞する「声」が重要です。②③④のめあては、もっともっと高めたい。②ではファーストタッチでのボールの置き場所の正確さ。③では、ワンツリーのプレー機会が少なかった。④では、グッドボディシェープでの広い視野の確保がなければサイドへ展開できません。今回見事優勝しましたが、もっと高いレベルを目指そう。まだ6年生のポテンシャルの半分も出ていません。君達はもっと出来る筈です。さわやか杯を目指してプレーの質を高めていこう!! y中野コーチ

ある中学校教諭の学級通心より

もらった力を倍にして

さわさんには4歳になる弟がいます。「かわいがってる?」と聞くと、「最近悪いことばかり言うてくる」と言います。幼稚園でいろいろなことを覚えてくるので

しょう。「そんなときどうするん?」と聞くと、「笑って聞いています」。「今、覚えてたのいろんな言葉を使っているんだろうね。さわさんのように聞いてくれると、きっと弟は賢くなるよ」と言うと、笑っていました。

さわさんは次のように書いてきました。「今日、ダイニングで勉強していると、弟が『ぼくもやる!』と言って私の隣に座りました。『お姉ちゃんのじゃまをしないでね』と言い、自分の宿題をしました。弟は一生懸命にひらがなを書いていました。自分の宿題をやりながら弟にひらがなを教えました。弟が上手に書けたら、私も嬉しかったです」

別の日、ゆうくんが書いてきました。「ひいばあちゃんの具合が悪くなり、部活が終わってすぐに、ひいばあちゃんの家に行きました。入学式以来です。そのときと全く違った姿でした。肩で息をして苦しそうでした。目はうつろで、目やにがたくさんついていました。ぼくは何て言えばいいのか分からなくて『ばあちゃん』と言いました。すると一瞬、つむっていた目がかすかに開いて、手が握手を求めているかのように上がりました」。

思春期の男の子が100歳を超えるひいばあちゃんに向き合います。ゆうくんは「その手をしっかりと握りました。『ばあちゃんは生きている。大丈夫』と直感しました。ばあちゃんにももらった力を倍にして返したい」と結びました。

競争で心がすさみ、何を考えているかわからないと言われる中学生ですが、しかし、幼い弟をかわいがり、ひいばあちゃんを思う中学生の姿があります。これらは親の姿に重なります。

子どもは親の言うようではなく、親のするように育つと言われますが、そのことを実感します。

